

## オオヨシキリのさえずり個体数の季節変化(1992)

大山紀子

### はじめに

オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* は、東南アジアから夏鳥として日本に渡来し、九州以北の湖沼や湿地、水田、河川などのヨシ原で繁殖するウグイス科の鳥類である。手賀沼でも4月下旬から9月上旬にかけて毎年多数が観察され、繁殖が確認されている。昨年に引続き、手賀沼周辺で繁殖するオオヨシキリについて、さえずり個体数の季節的变化を調査した。

### 調査地および調査方法

調査地は、1991年の調査と同じ、千葉県我孫子市に位置する手賀沼の下沼北岸で行った（図1参照）。この地域は、岸沿いにマコモやヨシ、ヒメガマを主とする群落が広がっており、これをぬって遊歩道が整備されている。ここからは両側に広がるヨシ原が容易に観察できる。遊歩道の200m程内陸に、ほぼ平行して道路が走り、その間には水田が広がっている。

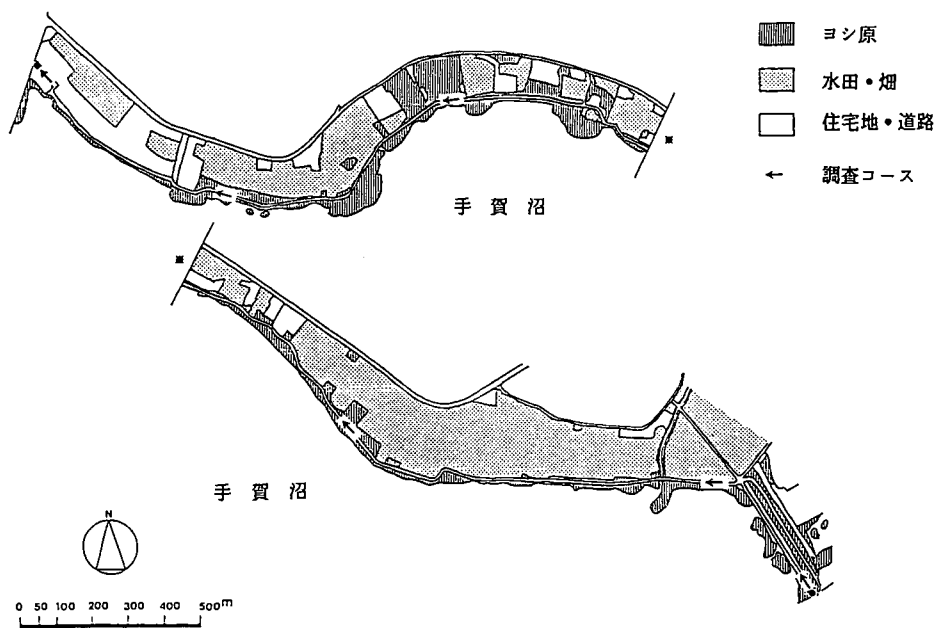


図1 調査地概要（我孫子市環境保全課，1991を参考に作成）

調査は、1992年4月8日から7月29日まで、週一回、合計17回行った。観察は、なわばり形成期に、さえずりが比較的活発である午前中に限って行い、約1時間30分かけて遊歩道を歩き、オオヨシキリのさえずり個体数を数えた。観察は肉眼でも十分であったが、必要に応じて8倍の双眼鏡を使用した。

### 結 果

図2に、手賀沼下沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の変化を示す。

調査を始めた4月8日と、4月15日には、さえずっている個体は観察されなかった。4月22日に1羽がさえずっているのが観察され、その後、さえずり個体数は徐々に増加し、特に5月12日から19日にかけて急激な増加が見られた。6月9日にその数は最大となり、29羽を数えたが、一週間後の6月26日には20羽に減少し、7月7日から7月15日にかけて急激に減少し、7月29日には一羽も観察されなくなった。

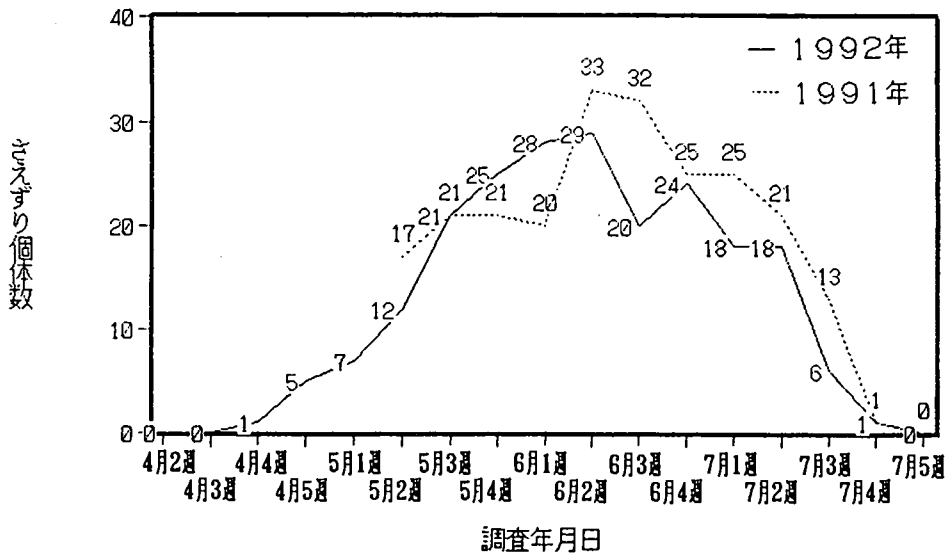


図2 手賀沼下沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の季節変化

### 考 察

図2に、1992年の調査結果を示す（参考のため1991年に同地域で同様の方法で行った調査結果を示す）。この結果から手賀沼下沼北岸でのさえずり個体数のピークは、6月10日前後、さえずりの最終確認日は7月の終わりであることが推測される。また、羽田他（1968）の報告によれば、オオヨシキリの雄は、渡来して住み着くとただちにさえずり始めることが知られており、手賀沼下沼北岸でのオオヨシキリの渡来時期は、4月20日頃と推測される。

大山他（1992）の調査結果と比較すると、この調査（下沼北岸）で得られた6月上旬というさえずり個体数のピークは、そのまま手賀沼全域の値を代表しているとは思えない。他の地域でも同様な調査が望まれる。

## 引用文献

- 我孫子市環境保全課. 1991. 手賀沼周辺植生調査報告書. 36pp, 我孫子市環境保全課. 千葉.
- 江崎保男. 1987. つがい形成にともなうオオヨシキリ雄のさえずり頻度と行動の変化. 日本鳥学会誌, 36: 1-11.
- 羽田健三, 寺西けさい. 1968. オオヨシキリの生活史に関する研究. I 繁殖生活. 日本生態学会誌, 18(3): 100-109.
- 大山紀子, 百瀬邦和, 平岡孝, 斉藤安行, 鶴見みや古. 1993. 手賀沼におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化 (1987~1992).

**Seasonal change of the number of song posts of Oriental Great Reed  
Warbler (*Acrocephalus orientalis*) at Lake Teganuma(1992)**

Noriko Ohyama

Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba, 270-11, Japan

付表1 調査年月日, 調査時間および調査時の天候 (1992年)

調査週	調査月日	調査時間	天候
4月2週	4月8日	9:50~11:26	晴れ
4月3週	4月15日	9:45~11:06	
4月4週	4月22日	9:20~10:28	くもり, やや強風
4月5週	4月28日	9:20~10:41	晴れ
5月1週	5月5日	9:18~10:33	晴れ
5月2週	5月12日	9:50~11:06	
5月3週	5月19日	9:12~11:07	晴れ
5月4週	5月26日	9:33~10:39	晴れ
6月1週	6月2日	9:55~11:26	晴れ
6月2週	6月9日	8:37~10:25	晴れ時々小雨
6月3週	6月16日	9:28~11:49	晴れ
6月4週	6月26日	9:39~11:08	晴れ
7月1週	7月1日	9:10~10:42	晴れ
7月2週	7月7日	9:31~10:56	くもり
7月3週	7月15日	9:49~10:46	くもり
7月4週	7月21日	9:15~10:18	晴れ
7月5週	7月29日	9:34~10:35	

付表2 調査年月日, 調査時間および調査時の天候 (1991年)

調査週	調査月日	調査時間	天候
5月2週	5月15日	9:15~11:00	晴れ
5月3週	5月21日	8:45~10:06	晴れ
5月4週	5月28日	9:30~11:05	晴れ
6月1週	6月4日	9:18~11:40	晴れ
6月2週	6月11日	9:20~11:15	晴れ
6月3週	6月19日	9:35~11:17	晴れ
6月4週	6月25日	9:25~10:42	くもり時々小雨
7月1週	7月2日	10:30~11:35	くもり, 強風
7月2週	7月9日	9:30~11:25	晴れ
7月3週	7月15日	8:40~10:00	晴れ
7月4週	7月23日	9:00~10:10	晴れ
7月5週	7月30日	9:10~10:18	

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第2巻：53-56（1993）

## 手賀沼におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化 （1987～1992）

大山紀子\*1・百瀬邦和\*2・平岡孝\*2・斉藤安行\*1・鶴見みや古\*2

### はじめに

手賀沼は千葉県の北西部に位置する利根川水系の沼で、様々な鳥類が生息し、そのいくつかが繁殖している。この沼の流域に広がるヨシ原には、毎年多数のオオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* が渡来し繁殖している。1987年から1991年までの5年間、手賀沼で繁殖するオオヨシキリについて、そのさえずり個体数を調査したが、これに続けて1992年も同様の調査を行ったので合わせて報告する。

### 調査地および調査方法

調査は千葉県の手賀沼全域で行った（図1参照）。調査地の主な植生は、マコモ、ヒメガマ、ヨシ、ネズミムギ等の水性植物群落が中心で、その内陸には水田が広がっている。手賀沼の北岸は岸に沿って遊歩道が整備されており、南岸には堤防が形成されている。

この手賀沼全域を上沼北岸、上沼南岸、下沼北岸、下沼南岸の四つの地域に分け、4グループで同時に観察を行った。調査時間は午前中とした。なわばり形成期のさえずりは、午前中に比較的活発であることが報告されている（羽田他，1968）。

調査は、徒歩または自転車で遊歩道および堤防を移動し、オオヨシキリの個体数を観察し、さえずりが確認できた地点、および姿が確認できた地点を地図に記入した。必要に応じて8倍から10倍の双眼鏡を用いた。

調査期間は1987年から1992年までの6年間で、毎年1回、さえずり個体数が最も多いと予想される、5月下旬から6月上旬までの晴天の日に行った。

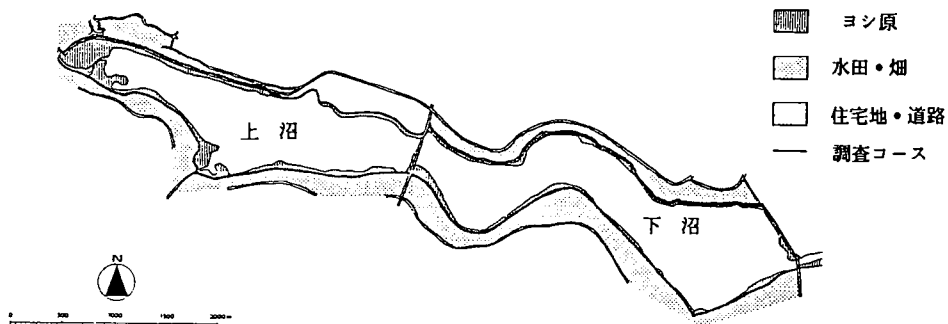


図1 調査地概要（手賀沼）

\*1 〒270-11 千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館

\*2 〒270-11 千葉県我孫子市高野山115 （財）山階鳥類研究所

## 結 果

図2から図6はそれぞれ、手賀沼全域、上沼北岸、上沼南岸、下沼北岸、下沼南岸における堤防内のオオヨシキリのさえぎり個体数の経年変化（1987年から1992年）を示したものである。

さえぎり個体数の経年変化について見ると、手賀沼全域ではさえぎり個体数は年々減少する傾向にあり、1992年には1987年の75%にまで減少した。

下沼北岸でも年々減少の傾向がみられ、1991年には1987年の39%にまで減少した。しかし、1992年には1991年の144%にまで回復した。

下沼南岸では、多少の変動はあるものの全体として減少の傾向が見られ、1992年には1987年の59%となった。

上沼北岸では、さえぎり個体数は1987年から1990年までほぼ一定であったが、1991年になって増加し、前年の164%となり、1992年もほぼ同じ値を示した。

上沼南岸では、1988年から1990年にかけてさえぎり個体数は増加した（1990年は1987年の113%）が、1991年には急激に減少、1992年にも減少し、1990年の71%となった。

また、1992年の手賀沼全域でのさえぎり個体数は161羽であった。4地域の1992年のさえぎり個体数はそれぞれ、上沼北岸で27羽、上沼南岸で74羽、下沼北岸で13羽、下沼南岸で47羽であった。

## 考 察

オオヨシキリのさえぎり個体数の変動の要因としては、調査時期のちがいや気候の変動などの影響も考えられるが、最も大きな要因としては、その生息場所であるヨシ原の減少が考えられる（大山他、1992）。

1992年の調査は、大山（1992）の手賀沼下沼でのさえぎり個体数の季節変化の結果、最もさえぎり個体数の多かった6月上旬に実施した。手賀沼下沼北岸では、確かにさえぎり個体数は増加したが、他の3地域ではさえぎり個体数は減少し、一見さえぎり場所として好適に見える環境でも、よくさえぎっている個体はあまり見られなかった。

今後、この調査を続けて行く上で参考にしたい。

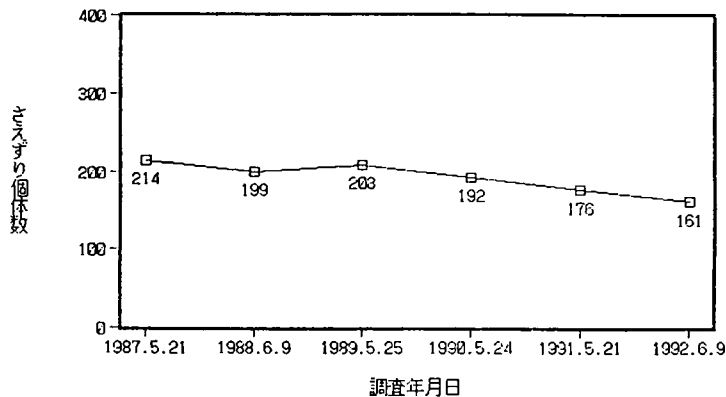


図2 手賀沼におけるオオヨシキリのさえぎり個体数の経年変化（堤防内）

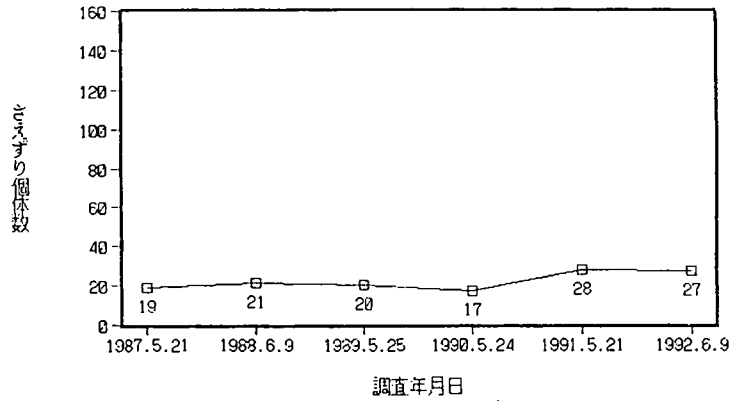


図3 手賀沼上沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化（堤防内）

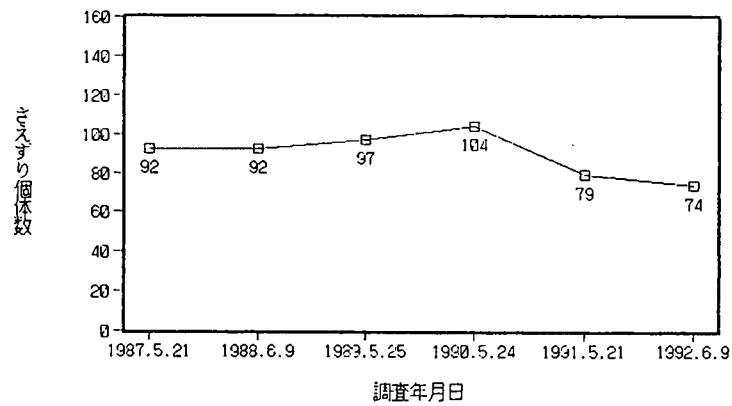


図4 手賀沼上沼南岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化（堤防内）

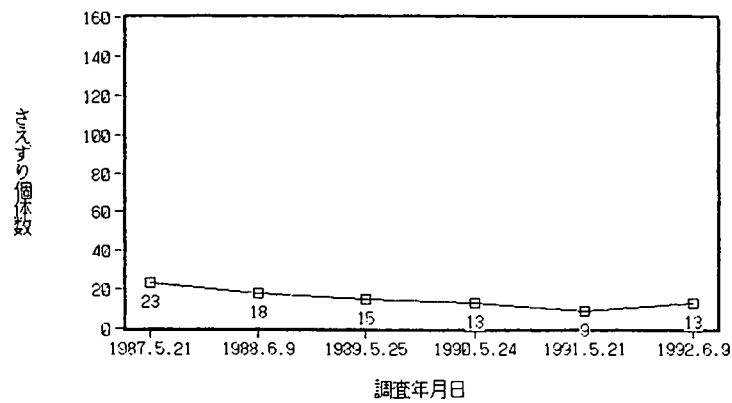


図5 手賀沼下沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化（堤防内）

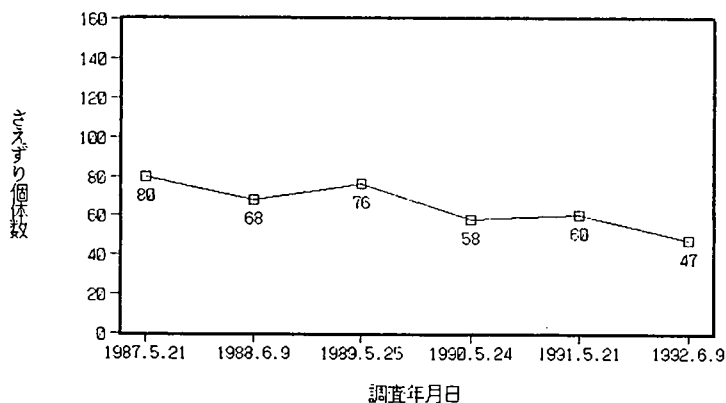


図6 手賀沼下沼南岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化（堤防内）

#### 引用文献

- 羽田健三, 寺島けさい. 1968. オオヨシキリの生活史に関する研究. I 繁殖生活. 日本生態学会誌 18(3): 100-109.
- 大山紀子. 1992. オオヨシキリのさえずり個体数の季節変化. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 1: 5-7.
- 大山紀子・百瀬邦和・平岡孝・斉藤安行・鶴見みや古. 1992. 手賀沼におけるオオヨシキリのさえずり個体数の5年間の経年変化. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 1: 37-41.

#### Annual change of the number of singing males of the Oriental Great Warblers (*Acrocephalus orientalis*) at Lake Teganuma during 6 years.

Abiko City Museum of Birds, Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba, 270-11, Japan  
Yamashina Institute for Ornithology, 115 Konoyama Abiko, Japan, 270-11

表1 調査年月日, 調査時間および調査時の天候

調査年	調査月日	調査時間	天候
1987	5月21日	8:00~12:06	晴れ
1988	6月9日	8:20~12:30	くもり
1989	5月25日	8:20~10:55	くもり
1990	5月24日	8:15~10:50	くもり
1991	5月21日	8:09~12:55	くもり
1992	6月9日	8:15~10:25	くもり時々小雨